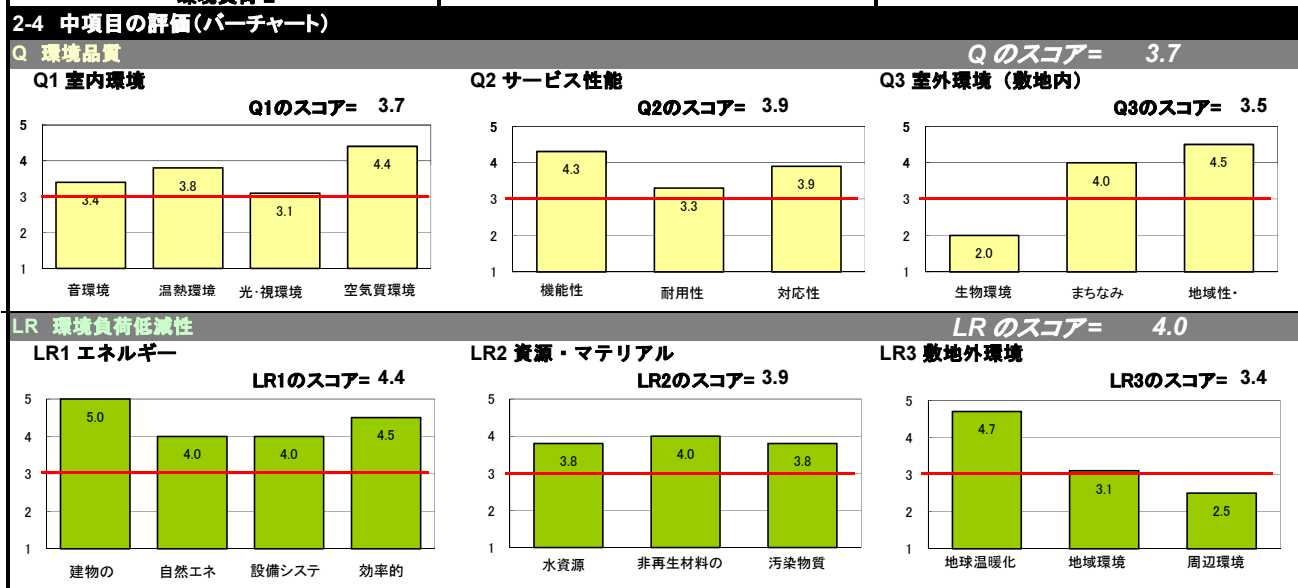
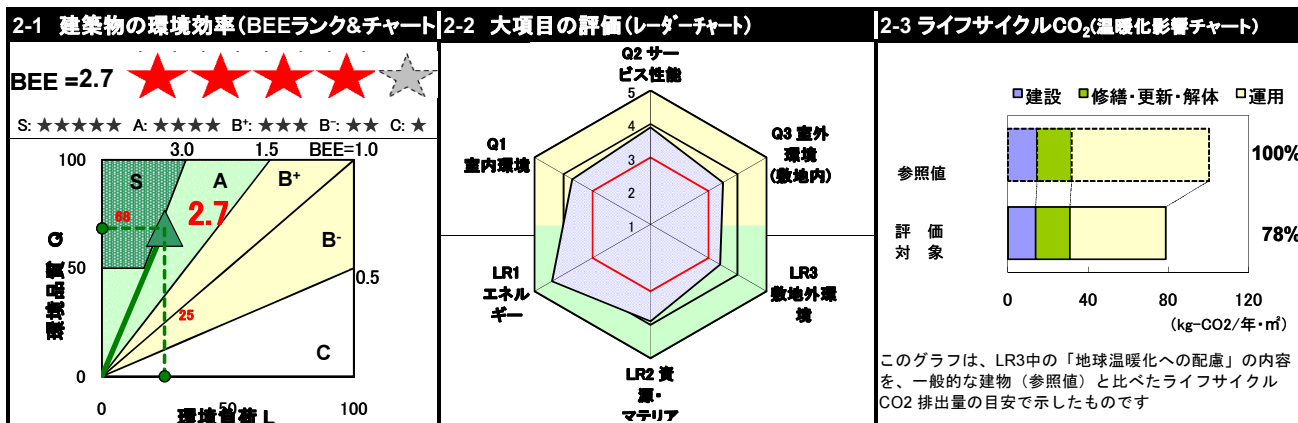


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	同志社大学今出川新棟	階数	地下2F、地上5F
建設地	京都府京都市上京区今出川通烏丸東入御所	構造	SRC造
用途地域	第2種中高層住居専用地域、第2種住居地域、準防火地域	平均居住人員	1,900 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	3,270 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年12月 予定	評価の実施日	2010/11/末
敷地面積	56,602 m ²	作成者	同志社大学設計JV
建築面積	8,619 m ²	確認日	2010/12/
延床面積	40,318 m ²	確認者	笹村 欽也



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
・周辺のまちなみへの配慮。 ・キャンパス内のオープンスペースの創出。 ・重要文化財など既存施設のもつキャンパス景観との調和。		・歴史的建造物(重要文化財)の改修保存。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・自然通風・自然採光の促進。 ・教室間遮音性能の確保。 ・床吹き出し空調などによる快適な居住空間の創出。 ・全仕上げ材料をF☆☆☆☆とする。	・ゆとりある出入口・廊下幅の確保。 ・各階に男女別多目的便所の設置。 ・メンテナンス性・更新性の良い材料の選択。 ・清掃管理施設・倉庫の確保。	・まちなみとの調和と周辺への圧迫感の軽減。 ・道路側への緑地の確保。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・高断熱・高遮熱仕様 ・トップライト・クール・ヒートピットなどの自然エネルギーの利用。 ・設備機器の高効率化。 ・BEMSの採用	・省水・省エネルギー型機器の採用。 ・雨水・井水の利用。 ・リサイクル品の利用。 ・室素消火設備の採用。	・雨水抑制による排水負荷の低減。 ・周辺への騒音・悪臭・光害の抑制。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される